はしがき　i

第Ⅰ部　分析枠組みと分析対象

序　章　技術導入に対する分析視点 ……3

1　分析の対象と課題　3
2　「西欧の衝撃」と技術導入　6
3　「技術格差仮説」と技術の適応化　12
4　本書の構成と展開　18

第1章　近代製糸技術の成立とその「里帰り」 ……21

はじめに　21
1　ヨーロッパにおける近代製糸技術の成立　22
2　蚕糸技術の発展を支えた科学の進歩　34
3　製糸技術の「里帰り」　40
4　再びアジアから世界へ　45
むすびに　51
補節　蚕糸技術に関する主な専門用語の解説　53

第2章　世界の蚕糸業：その多様性 ……57

1　蚕の種類とその特性　57
2　蚕の起源と養蚕の西漸　61
3　野蚕：もう1つの世界　66

4　世界の家蚕糸生産　71

第 II 部　日本における製糸技術の近代化

第 3 章　西欧技術の日本化とその後の独自な発展 ……79

はじめに　79
1　西欧製糸技術の導入：2 つの型　81
2　折衷技術の開発と糸質の改良　90
3　夏秋蚕の発達と 1 代交雑種の開発　98
4　多條繰糸機の完成から自働化の時代へ　107
むすびに　113

第 3 章補遺　初期外国人製糸技術者の人名とブリューナおよびミューラー ……115

第 4 章　適正技術を支えた労働力と労務管理 ……123

はじめに　123
1　製糸労働力およびその生産物の特質　125
2　製糸工場における労務管理　135
3　結論と含意　147

第 5 章　典型的な農村工業たる組合製糸の意義 ……151

はじめに　151
1　組合製糸の特質とその発展経緯　153
2　小幡村(群馬県北甘楽郡)の経済構造と組合製糸　164
3　農村立地型の営業製糸と組合製糸　175
4　結論と含意　181

第6章　適正技術の競争力の源泉：監督者層の近代化 ……185

1　問題への視角：市場適応力と技術教育　185
2　製糸教婦の役割とその養成機関　188
3　需要構造の変化とそれへの適応　202
4　結論と含意　217

第III部　中国蚕糸技術の展開

第7章　西欧製糸技術の導入と在来技術との共存 ……223

1　問題提起：生糸輸出の停滞　223
2　広東および上海における器械製糸技術　229
3　R&D活動と日本技術の導入　243
4　結びに：技術的停滞の要因　248

第8章　野蚕製糸技術の共存と展開 ……255

1　分析の視角　255
2　柞蚕繭の移出から柞蚕糸の生産へ　259
3　製糸技術の改良　268
4　安東製糸業の発展と停滞　278
5　結論と含意　288
補節　戦後の柞蚕糸生産　292

第9章　蚕糸業の基盤整備と改良技術の普及 ……299

はじめに　299
1　器械製糸技術の普及　300
2　世界恐慌と基盤整備への着手　315

3　技術改良と普及体制の確立へ　323
むすびに　336
補節　留日教育の意義と評価　337

第9章補遺　茅盾の『春蚕』にみる在来蚕糸部門の停滞 ……345

第10章　現代中国製糸業の発展と技術水準の吟味 ……355

はじめに　355
1　製糸業全体の発展動向　357
2　製糸技術水準の検討　377
むすびに　389

第11章　工場調査にみる製糸技術の水準と労務管理 ……393

はじめに　393
1　調査の対象と方法　394
2　調査結果の概要　399
むすびに　417

第IV部　インドにおける蚕糸技術導入の困難性

第12章　西欧技術の導入と在来技術への同化 ……423

はじめに　423
1　ベンガル：西欧技術の同化と1化蚕の衰退　426
2　野蚕糸の生産とその影響　439
3　カシュミールおよびマイソールにおける技術導入の試み　451
4　結びに：適応化を左右する条件　463

第13章　インドの蚕糸技術水準の現状 ……467

はじめに　467
1　インドにおける生糸生産の現状とその技術的背景　469
2　製糸工場調査結果にみる繰糸技術の水準と労働力の質　477
3　高格糸生産の必要条件としての生産管理　486
むすびに　495
補節　熱帯蚕糸業の挑戦：2化性養蚕への転換　497

第V部　技術導入と社会的適応力

終　章　導入技術の適応化とその規定要因 ……511

1　導入技術の定着をめぐって　511
2　適応力の規定要因　523

附録1　工場調査ならびに聞き取り調査の解説　533
附録2　聞き取り調査票および工場調査原票　540

参考文献　585
あとがき　605
索　引　609